厚生科学研究費補助金（こども家庭総合研究）研究協力者報告書

妊産褥婦及び乳幼児のメンタルヘルスシステムに関する研究
乳幼児期早期の母子コミュニケーションの質的評価とありかたに関する研究
（その２）母子コミュニケーションの成立を左右する要因に関する検討

小林　隆児　東海大学健康科学部社会福祉学科

研究要旨：これまでの母子関係の研究は、両者の行動水準での相互作用を客観的に分析する手法が主であったが、母子関係を基盤として形成されていく子どもの認知過程の内実に肉薄するには、行動水準のみならず母子双方の主観、および間主観の世界を視野に入れる必要がある。そこでわれわれは、母子コミュニケーションの破綻の要因について、乳幼児期の自閉症圏障害を対象に、①乳幼児の愛着パターン、②養育者の成人愛着表象(Adult Attachment Interview)を評価するとともに、各症例にみられる母子コミュニケーションの質的検討を行った。その結果、養育者のAAI安定型では、愛着形成を促す治療介入が功を奏すると、急速に母子間の情動調律が改善し、コミュニケーションが深まっていきやすいことが示された。しかし、AAI軽視型では、子どもを行動水準で捉えやすく、子どもの行動の意図を察知することに困難さを示しやすいことがわかった。以上より、養育者自身の愛着表象の質が母子コミュニケーションの成立過程に大きな影響をもたらす可能性が示唆された。

A．研究目的

昨年度、われわれは、Mother-Infant Unit (MIU)（小林, 1998; 小林ら, 1997）における臨床実践の知見をもとに、乳幼児期における母子間のコミュニケーションの破綻をもたらす要因として、nature（個体素質）と nurture（養育環境）に分けて検討した。その中で、特に養育者の子どもに対して抱く内的表象（内的ワーキングモデル）の質的問題を主に検討した。

これまでの母子関係の研究は、両者の行動水準での相互作用を客観的に分析する手法が主であったが、母子関係を基盤として形成されていく子どもの認知過程の内実に肉薄するには、行動水準のみならず母子双方の主観、および間主観の世界を視野に入れる必要がある（小林, 印刷中)。

B．研究対象と研究方法

1．研究対象

今回の対象はMIUにおける治療例で、年齢・性別による構成（表１）、臨床診断別構成（表２）、知的水準別構成（表３）を表に示した。

表１：治療開始時年齢／性別

年齢（歳）	>1	1-	2-	3-	4-	5=<	合計
男性	1	3	5	3	5	0	17
女性	0	1	1	2	3	0	7
合計	1	4	6	5	8	0	24

表２：治療対象（臨床診断 ICD-10）

ICD-10	(F code)	男性	女性	合計
反応性愛着障害	(F94.1)	1	0	1
自閉症	(F84.0)	6	5	11
その他の広汎性発達障害	(F84.8)	8	2	10
注意欠陥多動性障害	(F90.0)	2	0	2
合計		17	7	24

表３：治療対象（知的水準／性別）

知的水準	正常	軽度	中等度	重度	最重度	合計
男性	7	3	5	1	0	16
女性	2	5	0	0	0	7
合計	9	8	5	1	0	23

2．研究方法

われわれは、母子コミュニケーション破綻の要因の解明にあたって、乳幼児期の自閉症圏障害を対象に、①乳幼児の愛着パターン(Ainsworth' s Strange Situation Procedure; SSP)、②養育者の成人愛着表象(Adult Attachment Interview; AAI)（小林・財部, 1998）を評価するとともに、各事例にみられる母子コミュニケーションの質的検討を試みた。

C．研究結果

1．SSPとAAI

① 乳幼児の愛着パターン（表４）

SSPによる分類では、安全型（Secure type; B) 0例、回避型(Avoidant type; A)18例、アンビヴァレント型(Ambivalent type; C) 6例、崩壊型(Disorganized type; D) 0例で、回避型が最も多く75%を占めていた。

表４：Attachment Pattern (SSP)

SSP	B	A	C	D	合計
男性	0	13	4	0	17
女性	0	5	2	0	7
合計	0	18	6	0	24

② 養育者の成人愛着表象(AAI)（表５）

現時点では、主に母親を対象にAAIを実施したの

で、今回の結果は母親のみを対象とした。実施した16例では、安定型(Secure type; F) 8例、愛着軽視型(Dismissing type; Ds) 6例、とらわれ型(Preoccupied type; E) 2例、未解決型(Unresolved type; U) 0例の結果を得た。

表5：Adult Attachment Interview (AAI)

AAI	F	Ds	E	U	合計
母親	8	6	0	2	16

2．事例検討

養育者のAAI安定型では、愛着形成を促す治療介入が功を奏すると、急速に母子間の情動調律が改善し、コミュニケーションが深まっていきやすいことが示された。

しかし、AAI軽視型では、子どもを行動水準で捉えやすく、子どもの行動の意図を察知することに困難さを示しやすいことがわかった。

具体的な治療経過からみた母子コミュニケーションの特徴について、1例のみ呈示する。本事例は、母親のAAIが安全型で、実際治療経過において、実に望ましい養育行動がとれていた。それにもかかわらず、養育者の子どもに抱く内的表象の質が容易に母子コミュニケーションの破綻をもたらしうることを示していたので、ここに取り上げた。

事例　K男　治療開始時3歳3ヶ月

臨床診断：自閉症

SSP：回避型

AAI：安全型

治療開始直後から接近・回避動因的葛藤(Richer, 1993)が顕著に認められたが、治療介入が功を奏してから、急速に母子間の愛着関係が深まり、母子交流は豊かに展開していた。次第に、K男自身の内的世界の広がりが芽生え始めていた頃、治療開始後 16 ヶ月経過していた第 49 回セッションで、母親の目の前に様々な物を差し出して誇示するように、これは何かと言わせようとするのでした。母親が的確に反応してくれると機嫌がよいが、当たらないと不機嫌になり、顔を背けてしまいました。ブロックが沢山重ねられている治療室で、K男は半円形のブロックを二つ重ねて「ガー、ガー」といって、母親に分かってもらおうと誇示する仕草をするようになった。その時、なぜか母親はK男の要求に即座に応答できず、母親は寂しそうな申し訳なさそうにした。その時の母親のことばには強い困惑と頼りなさが感じられた。するとそれまでの母親への積極的な行動が急速に後退し、回避的行動を取り始めた。

その時の心境を母親はセッションの終わりに次のように説明した。母親はブロックの合わせ目が気になっていただけで、母親は彼のこうしたブロックへのとられを受け入れがたいところがあったという。治療開始直後にK男はこのようにしてブロックを積み重ねる遊びに没頭していた。その際彼はブロックの継ぎ目を神経質なまでのきちんと合わせていたのが印象的であったが、そのような行動を母親は自閉的な子どもの特徴として捉えていたので、治療初期の状態を想い起こしていた。この時は母親に映ったK男の行動は、「またブロックをきちんと合わせるこだわりが始まったのかしら」という現実不安が高まっていたために、K男の無様式知覚の世界、すなわち相貌的な世界に一緒に入っていくことができなかったのである。

D．考察

母子治療による介入が功を奏すると、子どもに積極的な愛着行動が出現する。その際、養育者の愛着表象(AAI)が安全型であれば、子どもの行動の背後にある意図を容易に察知することが可能になり、母子コミュニケーションが進展していく。しかし、AAI が軽視型ないしとらわれ型であると、子どもの行動を捉える際に、自己の愛着表象が投影され、否定的に捉えてしまう危険性が高い。

さらに安全型の AAI をもつ養育者においても、時に子どもの行動に対して過去の外傷的体験が投影されて否定的に捉える危険性が潜んでいることがわかった。ここに子ども自身の生物学的脆弱性による傷つきやすさを想定する必要があることが示された。

E．結論

母子間のコミュニケーションが、子どもの愛着パターンのみならず、養育者の成人愛着表象の質にも大きく左右されることが示された。しかし、たとえ養育者のAAIが安定型であっても、子どもに対する不安の質によって、容易に母子コミュニケーションが破綻する危険性もはらんでいた。

以上より、養育者自身の愛着表象の質が母子コミュニケーションの成立過程に大きな影響をもたらす可能性が示唆された。

【文献】

小林隆児（1998）．母と子のあいだを治療する－Mother-Infant Unit での治療実践から－．乳幼児医学・心理学研究, 7(1), 1-10.

小林隆児（印刷中）．社会情緒的発達と言語認知的発達をつなぐもの－自閉症の関係障害臨床－．東海大学健康科学紀要.

小林隆児・財部盛久(1998).自閉症児の母親たち－母子治療からみた世代間伝達－．臨床精神医学, 27(増刊号), 158-165.

小林隆児ら(1997)．東海大学健康科学部における Mother-Infant Unitの活動紹介．乳幼児医学・